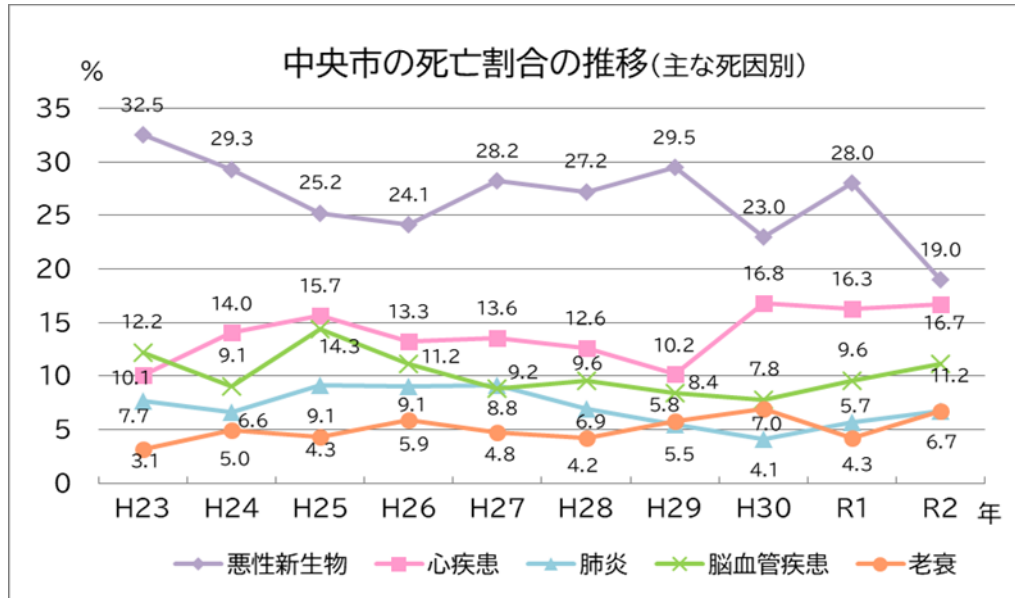


4 現状と課題

(1) 死亡割合の推移

山梨県は昭和58年から、悪性新生物(がん)が死因の第1位となっています。本市では毎年240人～280人程の死亡者がおりますが、死因の第1位は山梨県と同様に悪性新生物(がん)で、死亡総数の概ね2割を占めています。

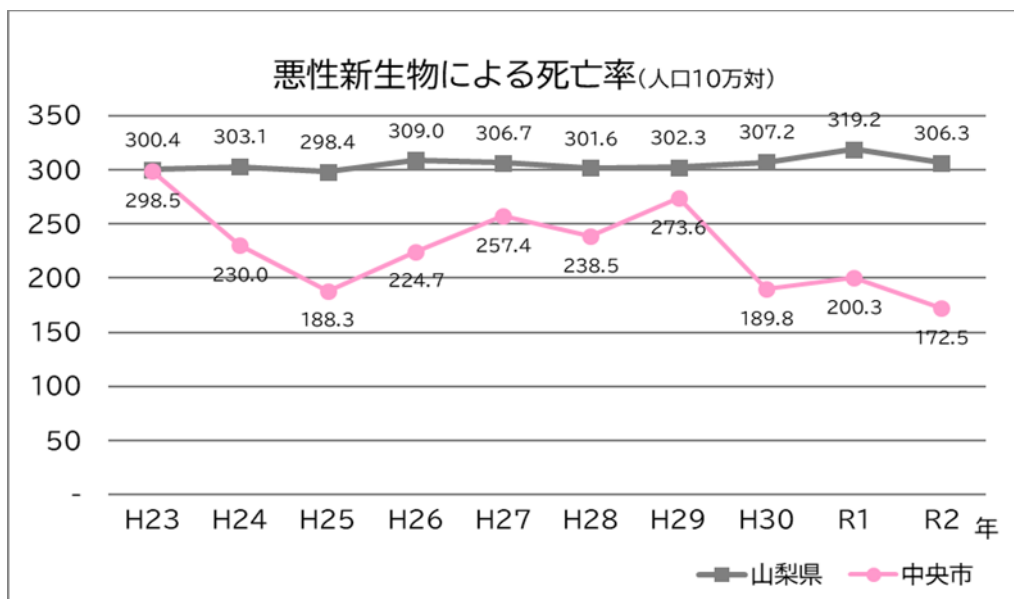
また、心疾患、老衰で亡くなる人の割合が増加傾向です。



山梨県人口動態統計

(2) 悪性新生物による死亡率の推移

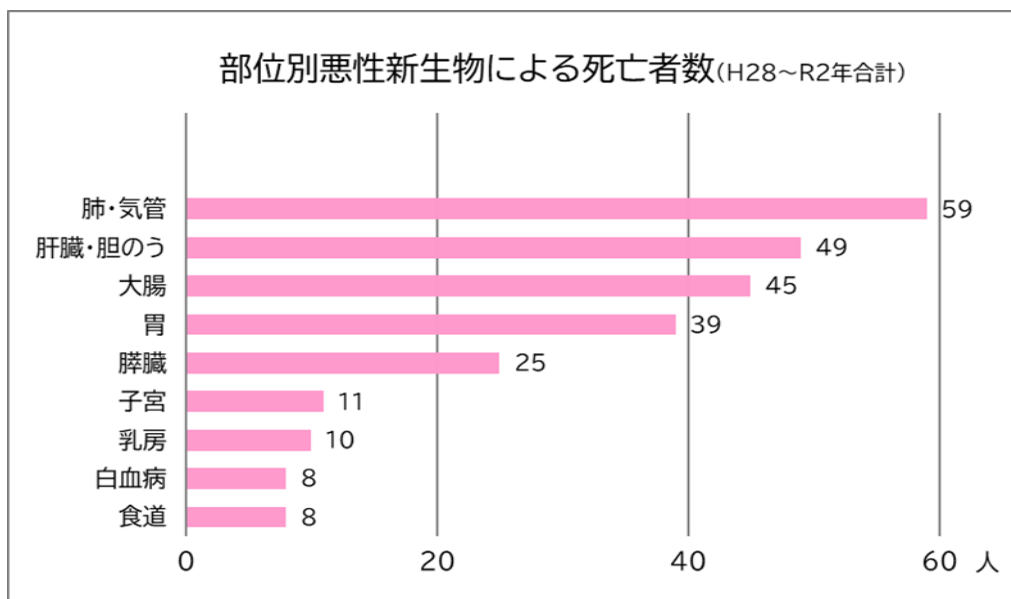
悪性新生物による死亡率は山梨県全体では横ばいで推移しています。本市は山梨県より低く、平成30年以降は減少しています。



山梨県人口動態統計

(3) 部位別悪性新生物による死亡者数

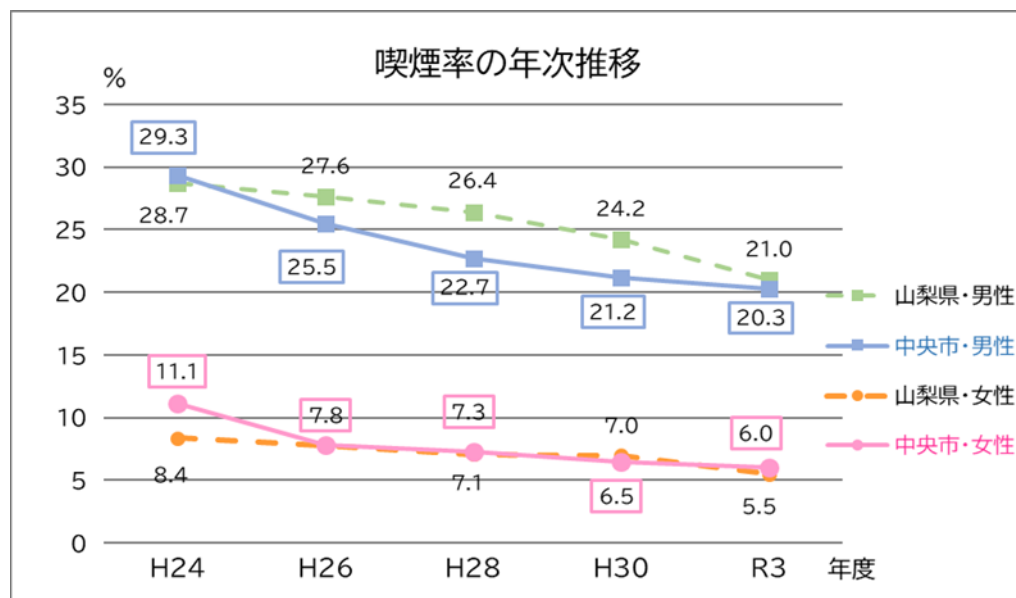
本市の過去5年間の悪性新生物による死亡者数は肺がん(気管含む)が最も多く、次いで肝臓・胆のうがん、大腸がん、胃がんの順に多くなっています。



山梨県人口動態統計

(4) 喫煙率

本市の喫煙率(総合健診・人間ドックを受診した30歳代以上)は減少傾向となっています。令和3年度の調査では、男性の喫煙率は山梨県より低いですが、女性の喫煙率は山梨県より高くなっています。

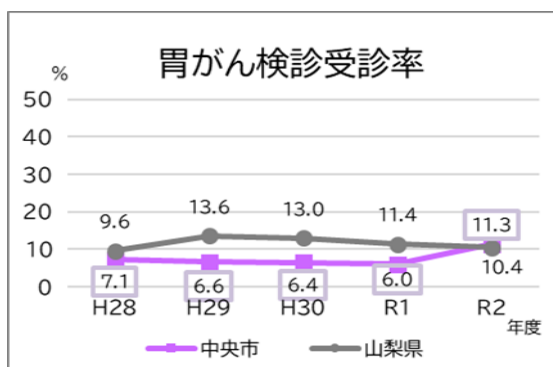


山梨県:喫煙対策実施状況調査 中央市:総合健診・人間ドック喫煙状況

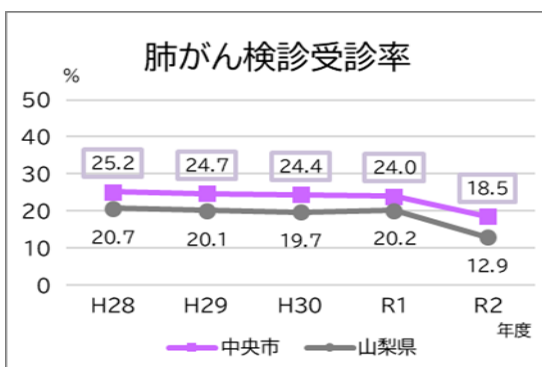
(5)がん検診受診率

本市のがん検診受診率は県平均よりも高くなっています。胃がん検診については県平均より低い状況が続いていましたが、令和2年度は県より高い値となりました。また、令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大による受診控えにより、山梨県全体でも例年のない受診率の減少がみられました。しかし、がんは死因の1位となっているため、早期発見・早期治療のためにも受診率向上に向けた取り組みが必要です。

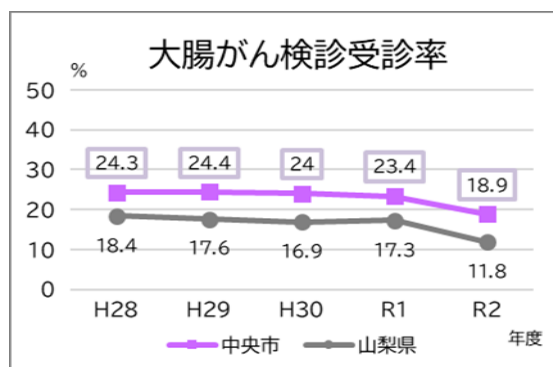
肝がん検診は「がん予防重点教育及びがん検診実施のための指針」の対象外となっていますが、山梨県は肝がんによる死亡率が全国平均よりも高く、本市においても肺がんに次いで2番目に死亡者が多くっており独自の課題となっています。



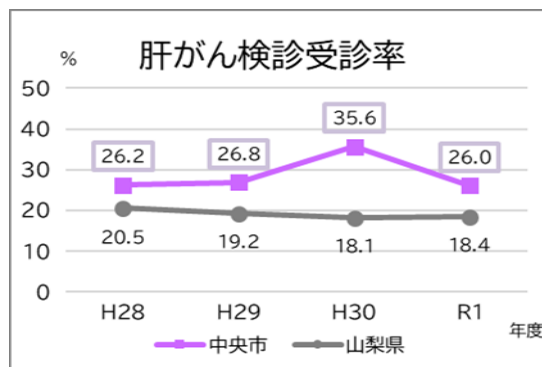
国指針に基づく健診について50～69歳を集計



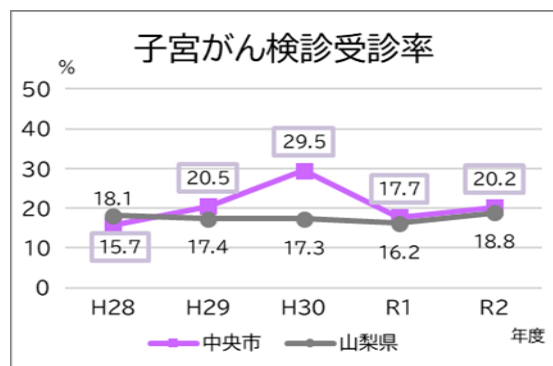
国指針に基づく健診について40～69歳を集計



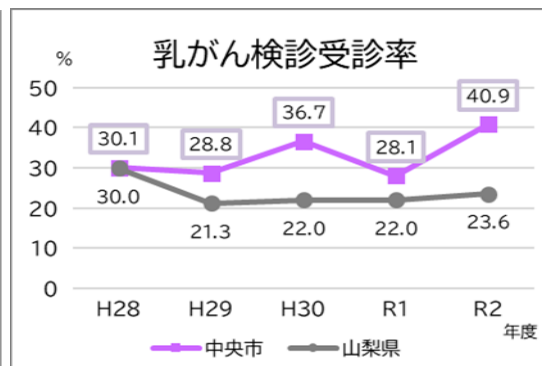
国指針に基づく健診について40～69歳を集計



40歳以上の腹部超音波および肝炎ウイルス検査を集計



国指針に基づく健診について20～69歳を集計



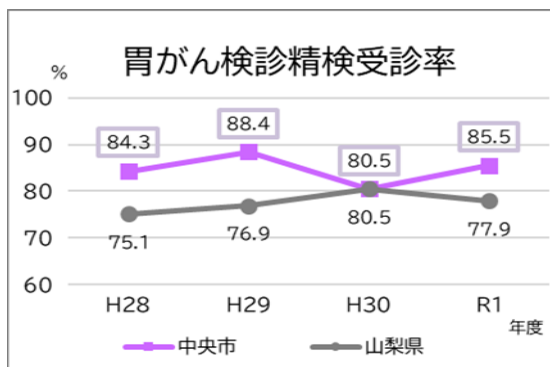
国指針に基づく健診について40～69歳を集計

地域保健・健康増進事業報告

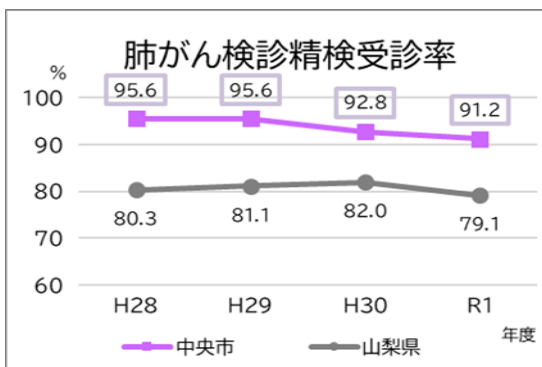
注意: 上記受診率は市町村で実施したがん検診受診率となっており、職場や自費で行ったがん検診は含みません。

(6)がん検診精密検査受診率

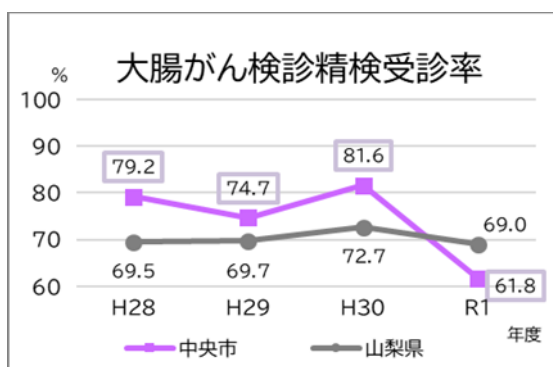
本市のがん検診の精密検査受診率は県平均よりも高く推移していますが、肺がん、乳がん以外は山梨県の目標値である90%を下回っています。また、令和元年度の大腸がん検診の精密検査受診率については、精密検査未受診者に対する受診勧奨が十分に行えず、例年よりも受診率が低下してしまいました。大腸がんは3番目に死亡者が多いがんとなっており、早期発見・早期治療につなげるためにも精密検査受診率向上のための取組が必要です。



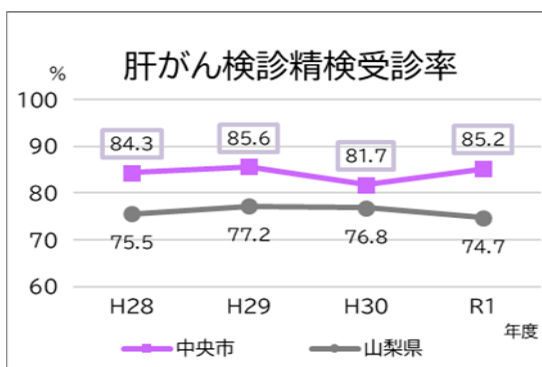
国指針に基づく健診について50～74歳を集計



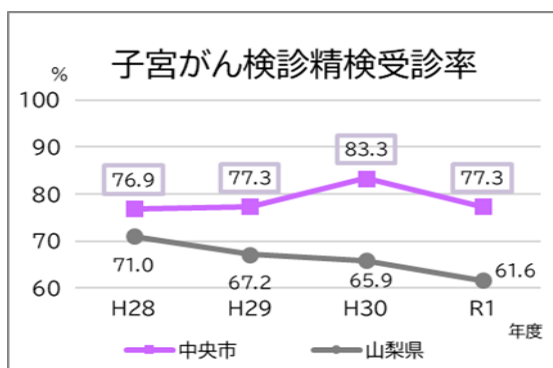
国指針に基づく健診について40～74歳を集計



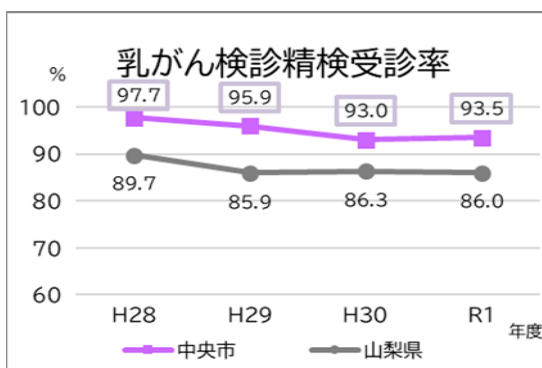
国指針に基づく健診について40～74歳を集計



40歳以上の腹部超音波および肝炎ウイルス検査を集計



国指針に基づく健診について20～74歳を集計



国指針に基づく健診について40～74歳を集計

(7) 肝炎ウイルス検査の実施状況

本市で助成する肝炎ウイルス検査の機会は、人間ドック、総合健診、妊婦健診があります。人間ドックは40歳から74歳、77歳、80歳の人、総合健診では40歳の人と初めて健診を受ける人に肝炎ウイルス検査を実施しています。令和2年度は新型コロナウイルスの影響で受診者が例年よりも少ないことが考えられます。検査者のうち、毎年0.5%から1%がB型肝炎またはC型肝炎の陽性となっています。また、妊婦は妊婦一般健康診査受診票で肝炎ウイルス検査の助成が受けられます。

肝炎ウイルス検査実施数

単位:人

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
人間ドック	2,312	2,362	2,324	2,381	2,109
総合健診	130	118	92	72	55
妊婦健診	238	218	211	215	208
計	2,680	2,698	2,627	2,668	2,372

人間ドック:受診総数、総合健診:肝炎ウイルス検査者数、妊婦健診:母子手帳交付数

人間ドック・総合健診における肝炎ウイルス陽性者数

単位:人

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
受診者	2,442	2,480	2,416	2,453	2,164
B型肝炎陽性者	15	17	9	12	22
C型肝炎陽性者	5	6	2	1	3

(8) B型肝炎ワクチン接種状況

B型肝炎は新生児時期など免疫が不十分な時期に感染すると、長期にわたる持続感染になり、将来、肝硬変から肝がんに進展するおそれがあります。B型肝炎ワクチンは平成28年から予防接種法に基づく定期接種が開始され、1歳未満の乳児に3回接種します。接種率については転出者もいるため100%にはなっていません。また、B型肝炎陽性の母親から出生した児に対しては定期接種の対象ではなく、免疫グロブリン投与も含めて健康保険で行われています。

B型肝炎ワクチン接種状況

単位:人

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
対象者数	274	253	218	233	224
接種者数	258	247	211	225	215
接種率(%)	94.2	97.6	96.8	96.6	96.0